

道路橋の定期点検に関する参考資料の作成 — 点検の質を確保するための損傷評価事例集 —



道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史

国土交通省では、膨大な数に及ぶ道路資産の機能を効率的に維持、確保していくため、データに基づく科学的な道路資産管理を推進している。資産管理は、資産の現状の把握、将来の状態予測、ライフサイクルコスト分析による維持管理計画立案などの様々な部分から構成されており、その中において点検は、資産管理に必要となる情報を取得するための最も基本的な行為と位置づけることができる。

道路橋の点検に関しては、2004年3月に改訂された「橋梁定期点検要領（案）」に基づいて、5年に一度、すべての部材、部位に対して、近接目視を中心とした点検が行われているところである。点検においては、その結果に基づいて、道路管理者が適切な維持管理行為をとれるように、損傷の程度や対策のあり方を評価、診断する必要があるため、点検技術者の経験や勘に左右されやすい損傷評価、診断

の部分、いかに均質で信頼できるものとするかが最大の課題となる。

道路構造物管理研究室では、現場の点検およびその他の管理に携わる技術者を支援するため、道路橋の代表的な損傷形態に対する損傷の評価事例と、各種の損傷に対する対策の検討を行うにあたって参考となる様々な損傷形態や技術情報を紹介した資料をとりまとめた「道路橋の定期点検に関する参考資料」を作成した。

この資料が現場で活用されることにより、点検結果に基づく評価、診断の信頼性が高まり、道路管理者が適切な情報に基づいて管理を行うことができるようになることが期待される。また、今後、蓄積された点検データを、予測技術等、資産管理技術を高度化していく研究にも積極的に活用していきたいと考えている。

第6回東京湾シンポジウムの開催



沿岸海洋研究部 海洋環境研究室長 古川 恵太

2005年6月2日に、第6回東京湾シンポジウムが横浜シンポジアにおいて215名の参加を頂き、盛況に開催されました。

東京湾シンポジウムは、2001年から国総研が主催しているシンポジウムです。今回は、国総研のプロジェクト研究「快適に憩える美しい東京湾の形成に関する研究」の現在までの研究進捗状況の発表を行うとともに、東京湾再生のための行動計画等への反映について行政担当者や現場で自然再生に取り組む方々と意見交換を行い、広く議論を共有したいと考え、関係者を招いてのパネル討論を行いました。

パネル討論では、①東京湾を再生のポテンシャル

を持ち、市民が快適に憩える場と理解し、社会経済活動の発展、生態系のネットワークの保全、さらには広域の物質循環に配慮した順応的なシステムを持った環境施策が有効であると考えられること。②そのためには、人と海のつながり、それぞれに適した生物生息場の保全・創造、物質循環の健全化のための施策応援の仕方についてのとりまとめや技術開発をしていくことが重要であることなどが議論され、「東京湾の環境グランドデザイン」を提案しました。これらの成果は、国総研のWebページなどを通して公開されています。